

『物思いの喜劇』

作…清野 和也

◎登場人物

白樺 山子	(女／白樺家長女)
白樺 しやくなげ	(女／白樺家次女)
白樺 あづま	(女／白樺家三女)
白樺 たら子	(女／白樺家四女)
白樺 一久	(男／声のみ／白樺家長男)
ワコ	(男／心中未遂をした男性)
島田 中吉	(男／白樺家近所の男性)
桐谷 銀次郎	(男／借金取り)

大正十二年（1923年）八月三十一日。吾妻山の麓にある信夫郡佐倉村（さくらむら）。かつては豪農だった白樺家の室内。馬と人が同じ屋根の下で暮らす馬屋中門（ちゅうもん）造り。馬屋が玄関から入ってすぐの左手側にあるが、そこに馬の姿は無い。

この家には四人の姉妹と一人の長男が住んでいる。彼らの両親はすでに死去。長男一久は、病に伏せており、この家の切り盛りはすべて長女の山子が担っている。豪農だった時代の財産は父親が博打でほとんどを散財。一久の薬代などが家計を圧迫し、借金を抱えている。

八月下旬だというのにうだるような暑さで、蟬の声すらおとなしい日。白樺家三女で女学生のあづまが幼馴染の中吉を連れ、玄関から入ってくる。

中吉 あづまちゃん、本当に入って良いの？

あづま この時間誰もいないから。

中吉 でも、

あづま 覚悟してよね、中吉ちゃん。今日逃したら終わりかもしれないんだから。

中吉 だからそれどういこと？

あづま 待った、黙って！（普段無いはずの履物を見て）いるな。

中吉 え、帰ったほうがいいよね？

あづま 隠れて！

中吉 え、いいよ、帰るって。

あづま 一生！ 一生後悔するよ！

中吉 ……解った…。

あづま、中吉が隠れたのを確認して

あづま （大きな声で）ただいま帰りましたー！！

山子 （奥の部屋から出てきて）あづま、おかえりなさい。

あづま 山姉さん、今日仕事じゃなかったの？

山子 それどころじゃなくてね、

あづま 兄（あに）様？悪いの？

山子 兄様は、いつもどおり。つまり悪い

あづま あ、桐谷が来る日だっけ？

山子 それもある。

あづま 返せるお金あるの？

山子 無い。そんなことより、

あづま そんなことって。この家もとられちゃうんじゃないの？ いい加減、

山子 いいから！あづま、こっちに来て座りなさい。大切な話があります。

あづま はいはい。

山子 早く来なさい！

あづま はい。

山子 走るな！家が壊れます。

あづま 引越そうよ、いい加減に。

山子 どこにそんなお金があるんですか。この家すらとられそうなのに、

あづま たらちゃん、拾ってこないかな。大金持ちの成金（なりきん）のひと。

山子 馬鹿なこと言って、

あづま 今朝お願いしてみたのよ、成金拾ってきてって。ほんと、なんでもかんでも

拾ってくるからさあ…。たまには山姉叱ってよね。

山子 たら子ったら偉いのよ。本当にひとが大切にしてそうなモノはちゃんと先

生に渡すの。誰も要らなそうなものだけ拾ってくるの。

あづま そんなものはウチでもいらないの。

山子 あれもこれもそれもたら子が拾ってきたものよ。

あづま だから貧乏神が出ていかないんだって！

山子 たら子はこの家のために頑張ってるんです。あなたはなんです、女学校でち

ゃんと勉強してるんでしょうね？

あづま それで何の御用でしょうか、山子お姉様？

山子 …しゃくなげがこの家を出るつもりだそうです。

あづま あ、そう。

山子　あなた知っていたのですか!?

あづま　昨日聞いた。

山子　なんでそのとき姉さんに言わなかったの!

あづま　聞かれなかったから。

山子　あづま!

あづま　だって、てつきり、山姉も知ってるもんだと思ってたから。

山子　今朝聞きました。仕事行く間際に。

あづま　そうなんだ。

山子　なにがなんでも止めますからね。

あづま　行かせてあげればいいでしょ。東京でしょ。

山子　そしたらこの家はどうやって生きてくの? あなた働くしかないわよ。

あづま　えー、それは。

山子　もちろん、それはしたくありません。せつかく母さんがあなたを通わせてく

れたんだから。

あづま　うん…。

山子　なにがなんでもしやくなげを止めなさい! 良いですね。

あづま　はーい。

山子　解りました。

あづま　解りました、山子お姉様。…でもさ! しやく姉が東京で稼いでこの家にお金

を入れてくれればいいだけの話じゃない? 福島よりずっと稼げるって。

山子　…あの子、東京に行って何をするつもりか聞きましたか?

あづま　女優でしょ?

山子　いかがわしい。

あづま　別にいかがわしくないって。

山子　せいぜいあの女優みたいになっておしまいよ、心中した…、

あづま　松井須磨子? しやく姉だよ! ? 絶対無いって。

山子　いいから! しやくなげの荷物はまだ家にあります。帰ってきたら、絶対に外

に出さないこと。いいですね。

一久　(奥の部屋から声のみが聞こえる) 山子、山子…。

山子 兄様、今、参ります。

あづま まあ姉さんは兄様の看病してあげててよ。どーんと任せといて！

山子 あづま。この家はあなたにかかつてるの！

あづま はーい。

山子、一久のいる奥の座敷に退場

あづま ……中吉ちゃん、中吉ちゃん。

中吉 帰ったほうが良いね。山子さんがいるんじや、

あづま 想定外だったな。山姉、島田の家、憎んでるからなあ…。

中吉 こないだ見つかったときなんか箒持って追いかけられた。

中吉&あづま 島田の家の者は入ってくるな！

あづま 鬼だよ、あれは。中吉ちゃんが悪いわけじゃないのにね。

中吉 ウチの父ちゃんが悪いから。

あづま 騙された方も悪いんだよ。ま、山子ゝって兄様のやつが始まったら、しばらく付きつきりだから。…しゃく姉の話、聞いてたでしよ。だから今日しかないわけ。

中吉 いや、そのさ、

あづま 中吉ちゃん、しゃく姉のことよろしく。ひとりで東京行かせるの心配だったの、正直。ああ見えて、抜けてるところあるし、

中吉 なんのこと？

あづま 中吉ちゃんも、家出たといって言ってたでしよ。ちようどいいって。

中吉 待って待って、あづまちゃん。

あづま 家とかそういう時代じゃないの。大正よ、大正。明治が終わって時代は大正、いつの間にやら十二年。ふたりで駆け落ち、花の東京、大正ロマン！

中吉 勘違いしてない？

あづま 解ってるって。しゃくなげ姉さんのこと好きなのは。でもまあ、山姉が許してくれるわけもないし、

中吉 いや、あのね、

あづま　みなまで言うな、野暮ではないか。山姉は私が力づくで止める！元はと言え

ば、山姉が悪いんだから、

中吉　そうなの？

あづま　ほら、武蔵よ。

中吉　誰？

あづま　馬よ、馬。いたでしょ、入り口のところ。大事にしたの。しゃく姉。それ勝手に売っちゃったの。

中吉　山子姉さんが！？ひどいね。

あづま　お金無いから、解るけどさ。でも、しゃく姉にとっては、武蔵が心の支えだったわけ。愛してたよ、あれは。…売られたこと知って三日三晩食うもの食わず泣き続けて、仕事も休んでね。

中吉　あのしゃくなげさんが！？

あづま　で、今朝、東京行って女優になるからって。

中吉　急だね！？

あづま　しゃく姉には、この家にいる理由なんて、あの馬しかなかったってことよ。

わかんなくもないな。だから私はしゃく姉の力になるの。

中吉　でもしゃくなげさんいなくなったら、あづまちゃん女学校通えなくなっちゃうんじゃ。

あづま　…仕方ないよ。もともとうちみたいな貧乏が通えるところじゃないし

中吉　でもあづまちゃんは、

あづま　でもでも言わないの！学校やめてさ、東京で素敵なモダンボーイ見つけるのもいいなあ。

中吉　東京行きたいんだ、あづまちゃんも。

あづま　中吉ちゃんもでしょ？

中吉　あ… うん。僕は…

あづま　ウジウジしてたら好機を逃すよ！…あのね、最後だと言っておくよ、…うん。

中吉　あ…！誰か来た！

あづま　とりあえず隠れるね！？

中吉

あづま 走るな！ 家が壊れる！
中吉 はい！

中吉が隠れると、四女のたら子が良い身なりをしたワコを連れて歌いながら帰ってくる。ワコは服が濡れている。

たら子 ♪こがね虫は 金持ちだ 金蔵（かねぐら）建てた 蔵（くら）建てた

飴（あめ）屋で水飴 買って来た♪

あづま たらちゃんお帰りー。

たら子 ただいまー。

ワコ お邪魔します。

あづま あ、はい、こんにちは…。えっと、たらちゃん、この方は？

たら子 あ！ えっとねえ、なりきんちゃん。

ワコ はい、なりきんです。

たら子 なりきんちゃんです！ わたしは、たら子です。よろしくお願いします。

ワコ よろしくお願いします。

たら子 このひとは、お姉ちゃんのあづまちゃんです。

あづま たら子の姉のあづまです。あの、ビショビショですが、

ワコ あ、大丈夫ですよ。お世話になります。

たら子 たらちゃんには、あづまお姉ちゃんと、しゃくなげお姉ちゃんと、山子お姉

ちゃんがいます！

ワコ 四姉妹なんですネ。

たら子 あと一久お兄ちゃんがいるけど、一久お兄ちゃんのご病気です。

ワコ そうなんですか。大変ですね。

たら子 はい！ かけいが火の車です！

あづま …たらちゃん。この方、どうしたの？

たら子 あづまお姉ちゃん、このかたじゃなくて、なりきんちゃんだよ？

あづま なりきんちゃんどうしたの？

たら子 拾った！

あづま 拾った!?

ワコ 拾われました。

あづま お姉ちゃん!! 山姉ちゃん!! たらちゃんが成金拾ってきた!!

山子出てきて

山子 成金!?

たら子 山子お姉ちゃん、なりきんちゃんです。

ワコ なりきんです。

たら子 イチバン上のお姉ちゃんの山子お姉ちゃんです。

山子 山子です。

あづま ああ! 手ぬぐい、どうぞ! お召し物は、

ワコ ああ、お構いなく。

山子 たらちゃん、手洗って、お庭のお野菜にお水あげてくれる?

たら子 はい!

たら子退場

山子 えっと…。

ワコ あ、お世話になります。どうぞよろしくお願いいたします

山子 ああ、ちょっと待ってくださいね。その、たら子が拾ったというのは。

ワコ 文字通りです…。拾っていただいて、

山子 …これは、えっと、大変失礼いたしました…。

ワコ 失礼だなんてとんでもない。つまりは命を救っていただいたんです。

山子 命を?

ワコ ええ。実はある女性と荒川で心中を試みまして。

山子 心中!?

ワコ だけど、まあ、一緒に身を投げようとした女性が、イザというところで尻込みをしだした。こっちはすっかりその気になってましたらね、頑張れ、諦め

るな、死ぬ気になれば絶対できると。でも、あの子、僕を置いて逃げてっちゃった。馬鹿らしくなって止めようと思ったのですが、足を滑らせて荒川へと真つ逆さま。どんぶらこどんぶらこと流れたのですが、運良く河原に流れつき、そこをたら子さんに救って頂いたと。

山子
それはなんとも。

ワコ
聞けばこの家では「おちてるものは、天からこの白樺家へのお恵みもの。それがお母さんのわたしへの遺言。わたしはそれを守ってるの。」と。健気な姿に涙止まらず、拾ってもらったこの命、白樺家のためには思いました。

山子
あ……えっと……でもですね、さすがに人様を拾ってというわけには……その、貧乏暮らしですし……。

ワコ
ああ、ご心配なく。雨風しのげる寝床と、すこしの粟をいただければ構いません。男手も足りないようですし、お役に立ちますよ。きつと。

山子
年頃の妹たちもおりますし、その、

あづま
成金なんですか！

ワコ
え？

あづま
成金なんですか！？！？

ワコ
まあ、生まれてこの方、金には困ったことはありませんね。

あづま
よろしく願います。

山子
あづま！

あづま
せっかくだらちゃんが拾ってきたんですもの。ね。兄様の服借りてこようか？そのままじゃ風邪ひいちゃうもの。

山子
あづま！今日に限って、どうしてこんな、

あづま
ちよつと良いことでしょ、成金でしょ！

ワコ
成金ですよ。

山子
心中と言いましたね。ご実家とはご縁が切れてるんではなくて？

ワコ
いやまあ、なんとかありますよ。お金の工面をすればいいんですね。

山子
……正直な話、胡散臭い！

あづま
山姉！藁が流れてきたんだよ！すがろうよ！

山子
……たらちゃん、どうせならあの馬拾ってきてくれれば良かったのに。

あづま 山姉も解ってたんだ。

山子 そうでもしなきゃ生きられなかったの！

ワコ おかわいそうに、そんな心配ももう無用！

山子 心中なんてふしだらな男、この家に置いておけますか！　こんな…こんな
…馬面の男！

しゃくなげの姿が家に向かう橋の向こうに見えて

山子 しゃくなげが帰ってくるわ！あづま！頼むわよ。

あづま 山姉、無理だと思うよ。

山子 絶対に！！いけないの！！

あづま …山のお告げ？

ワコ お告げ？

あづま ああうん。山姉のそれ、当たるんです。吾妻山の噴火の瞬間、お母さんの股
からどつかーんって産まれた。だからなんですかね。そっか、お告げか。

山子 お願い。

あづま お告げだって、言えばいいじゃない。

山子 あの子もう嫌がるもの、そういうの。

あづま じゃあ、もう武蔵連れて来るしか無いよ。私じゃ無理！

ワコ ああ！その武蔵っていうのは？

山子 ……あんた、馬になりなさい。

あづま ちよつと山姉！？

山子 妹のしゃくなげが大切にしていた馬！武蔵の代わりにあなたがなるの。こ
の家に留まらせること。それが出来たら、住まわせてやつてもいい！

ワコ うまくいったらってことですね。

山子 そう。

ワコ 馬だけに。

あづま 駄目だよ、このひとじゃ。

ワコ 馬小屋行ってますね。

山子　　そうね。

あづま　無理でしょ、山姉。

山子　　押し通す！

ワコ　　（馬の鳴き真似）イーン！

山子・あづま　うまい。

ワコ　　馬だけに？

あづま　うるさい。

三女のしゃくなげが「ゴンドラの唄」を歌いながら帰ってくる

しゃくなげ　♪いのち短し　恋せよ乙女

あかき唇　褪（あ）せぬ間に

熱き血潮の　冷えぬ間に

明日（あす）の月日は　ないものを♪

山子　　しゃくなげ。

しゃくなげ　皆さん、長い間、たいへんお世話になりました。あづま、荷物、まとめてて

くれた？

あづま　えっと、

山子　　待ちなさい。

しゃくなげ　嫌。

山子　　どうしても行くつもりなの？

しゃくなげ　仕事も辞めてきました。

山子　　行っちゃ駄目！

しゃくなげ　「決めたことはやりなさい。」それが、母様からの私への遺言です。

山子　　行かないってもう一回決めればいいでしょ。

しゃくなげ　出来ません。

山子　　私の母様からの遺言は、「この家のみんなを守ること。」

しゃくなげ　守れてるの？

山子　　は？

しゃくなげ
あづま
この家が貧乏で借金まみれで、それで守れてるっていうの？
しゃく姉。

しゃくなげ
山子
山姉が裕福なだれかに婿入りしてもらえればよかったのね。
一久兄様がいるでしょう、この家の跡取りは。
病気がちでしょ、よくある話じゃない。

しゃくなげ
山子
しゃくなげ！
そうしたら、私が東京行くことだって、誰も文句言わなかったんじゃない？
……あんた。大事な子を置いて東京行くつもり？
大事な？

山子
しゃくなげ
そうよ。あんたの馬！
え！武蔵！？

山子
しゃくなげ
そう。あんたが大事に大事にしてきた馬。……たら子がね、今日拾ってきたの。
本当に！？

山子
しゃくなげ
あんたが愛しくて、買われたところから逃げ出して、そのまま濁流の荒川に
飛び込んだんだろ？河原にいたところをたらちゃんが拾ったの。
どこにいるの！？

山子
しゃくなげ
馬小屋にいたでしょ。
本当！？

山子
しゃくなげ
見てください！
うん……！

そこに桐谷銀次郎が出てきて

銀次郎
お邪魔します。

山子
桐谷さん、
おや、こんな昼間に珍しいですね。姉妹まるっとお揃いで。
そこ、どいて。

銀次郎
しゃくなげ
しゃくなげさん。助かったよ、あんたが一番話通じるから。
借金のことなら姉に話をしてください。

銀次郎

この白樺家の借金なんですよ。しゃくなげさんに関係の無い話じゃないんです。ゆっくりお話ししましょう。今日は珍しいもんも持ってきたんですよ、ナマズの洗いです。

しゃくなげ

私、この家とは縁がなくなりますので。

銀次郎

ええ、そうなんですか！？嫁入りですか？

山子

しゃくなげ！あんた、

しゃくなげ

何を言われても行きますから！

山子

…本当にごめんなさい。あなたに相談したら絶対に反対されるって解ってた。だから勝手に売りました。

しゃくなげ

・・・

山子

本当に本当にごめんなさい。

しゃくなげ

初めて見た。山姉が妹に頭下げるところ。

山子

…あなたに行ってほしくないの。どうしても東京に。

しゃくなげ

…仕方ないと思ってる。武蔵、足、怪我しちゃったんだもん、解ってたよ。

あづま

しゃく姉…。

しゃくなげ

怪我した農耕馬よ。売ったら、きっと誰かに食べられちゃったんだろうなあって、悲しくて悔しくて…。でも、良い。戻ってきてくれたんでしょ、武蔵。うん、だから、

しゃくなげ

しゃくなげ

…山姉、違うの。私、本気で東京に行きたい。本気で女優になりたいの。

山子

それは絶対に駄目です。

しゃくなげ

山姉！！

山子

あんたろくに芝居なんて観たこともないでしょ。

しゃくなげ

ある！ 七年前の夏！

山子

その一回だけでしょ。

しゃくなげ

そうたった一回一度きり、福島座の舞台の上。松井須磨子のカチューシャに、彼女が歌った「復活」に、それからずっと心惹かれてた。たった一回一度きり。だけどその一回が忘れられない。

山子

あんたがなれるもんですか。

しゃくなげ

自分が一番思ってたよ。でもね、母様が歌うと褒めてくれた。

山子 あんたの歌は素人の歌！田舎娘の歌！

しゃくなげ 知ってる！でも、山姉もあづまもたらちゃんも私が歌うたび喜んでくれた。

山子 悪いことは言わない。諦めなさい！

しゃくなげ もう決めたから。武蔵と一緒に行ってきます。

山子 しゃくなげ！！

銀次郎 …行かせてやりなよ、山子さん。

山子 よそ者が首突っ込まないで！

銀次郎 よそ者じゃねえよ、家族みたいなもんです。

山子 は？

銀次郎 オレの師匠が言うんです。借金取りとその家は、金の切れ目が縁の切れ目。

借金ぜんぶ返し終わるまでは、決して他人じゃねえ、家族なんだってね。

山子 この子が東京で失敗したら、借金が増えるだけ。

銀次郎 そんなときは縁が更に深まるってわけで。

山子 今すぐ断ち切りたいの！

銀次郎 オレはね、感動しましたよ。しゃくなげさんのデカイ夢！

しゃくなげ ありがとう、桐谷さん。それじゃあ皆さま、お元気で。武蔵！行きましょう！

武蔵！！

山子 しゃくなげ！

あづま 山姉、走らないで！家が壊れる。

山子 くうう！

しゃくなげ、ワコを連れて出てくる。ワコは顔を隠している

ワコ イーン！

しゃくなげ 姉さん。

山子 なあに。

しゃくなげ …武蔵の馬小屋にいらしたのだけど、この方はどなた？

ワコ イーン！イーン！

しゃくなげ ちょっと黙っててくれる？

ワコ
すいません。

山子
どなたって、武蔵でしょ？

しゃくなげ
武蔵は！馬よ！！

ワコ
しゃくなげさん、実は僕は武蔵なんだ。あなたを乗せて平原を走ったこと、決して忘れられないよ。君への思いからこうして人間に姿を変えてこの世に生まれ変わったんだ。

しゃくなげ
…本当に？

ワコ
ああ。ほら、足の傷もそのままだ。どうだい、なんだって聞いてご覧！どんなことだって答えてあげるよ、イーシンイーシン。

しゃくなげ
私の夢は？

ワコ
毎晩語ってくれていたね。大きな夢。素晴らしい夢。家族にも言えなかった夢。でもこの武蔵にはその夢を果たした姿がこの眼にはつきり浮かぶよ。

しゃくなげ
武蔵！

ワコ
小次郎！

しゃくなげ
え？

ワコ
つい。

銀次郎
もしや！ 若じゃありませんか？

ワコ
ちがうヨ、武蔵だよ？

銀次郎
いいや、やっぱり間違いない。その声、若だ。

あづま
若って銀次郎さんところの？

銀次郎
ええ、社長の息子ですよ。昨日から失踪しちゃって、

山子
あの会社の…。

ワコ
ちがうヨ、武蔵だよ。にんじん食べたいなあ。

そこにたら子が庭から戻ってきて

たら子
あ、しゃくなげお姉ちゃん、おかえりなさい。
しゃくなげ
ただいま、たらちゃん。
たら子
あ！ このひとが、しゃくなげお姉ちゃんです。

ワコ たらちゃん！ 僕は、本当はこの家のお馬さんだったんだ。

たら子 え！ お馬さん！？

ワコ そうだよ、乗ってごらん。

たら子 わーい。

ワコ イーン！イーン！

銀次郎 やめてください、若ア！！

ワコ 黙ってな、男がこの道で生きてくと決めたんだ。

銀次郎 やっぱり若だ！

しゃくなげ …武蔵、ほうら、あなたが大好きだった草よ。

ワコ イーン？

銀次郎 若に草食えつてのかア！

たら子 はい、お馬さん、召し上がれ。

ワコ 草アww いただきまーすww

銀次郎 どうしてそこまで！

ワコ 愛だよ。

しゃくなげ ね、覚えてる？ あの吾妻山と一緒に登った日。

ワコ もちろんさ。山の頂上に行つて、落ちてくるような星空をふたりで見あげたね。

たら子 ねえねえ、食べないの？

ワコ 醤油かなんかもらえますか？

しゃくなげ …やっぱり、あんた、武蔵じゃない。

ワコ 武蔵だよオ、イーン。

しゃくなげ もしかしたら武蔵かもってちょっと信じちゃったけど。…この家の人は吾

妻山には決して馬を連れて行きません！

ワコ ええ！？ 騙したんですか！？

銀次郎 おいおいおいおい、若に嘘ついてんじゃねえぞ！

ワコ 黙つてろオ、銀次郎オ！

銀次郎 へい！

しゃくなげ 最初に騙したのはどっち！

たら子 えー、お馬さんじゃないの？

ワコ うん、ごめんねー、人間でした。でも草は食べれるよオ？。ムシヤムシヤムシヤ。

銀次郎 やめてください、若ア！

ワコ （顔を出して）見て驚け、銀次郎！僕だア！

銀次郎 今更すぎますよ。

しゃくなげ …山姉さん。こんなバカなことまでして行かせたくないの。
山子 ええ。

しゃくなげ この家のため？

山子 あんたのため！

しゃくなげ この家に、この村に捕らわれていることが私のため？家のために好きでもない男と結婚させられるのが！？

あづま 結婚？

しゃくなげ あづま、あんたも気をつけなさい。勝手に縁談持ってこられるよ。

あづま 山姉？

山子 あたしみたいになってほしくないの。

しゃくなげ 結構です！

山子 誰か良い人がいるの？

しゃくなげ 山姉には関係ない。

あづま ああ！ああ！わかった！！そういうこと！

ワコ そうです、僕がいるよ。ともに行きましょう、花の都の東京へ！

銀次郎 何言ってるんですか、若ア！

ワコ 馬小屋で聞いてました。あなたの歌声に惚れました。

銀次郎 またそれですか！

ワコ はじめは愛してもらえなくなっただけいい。東京じゃ金も入り用でしょう。目と口と鼻と臓物のある財布だと思ってください。

あづま ちよっ待ったア！ 中吉ちゃん！

あづま、中吉が隠れていた場所を暴き

中吉 あ、どうも、皆さん。

山子 中吉イ！！ 島田の家の者が何のようだ！

中吉 いやあの、

山子 出てゆけェ！出てゆけェ！

あづま 負けないで、中吉！今こそ思いの丈を！

たら子 がんばれー！ がんばれー！

一久（声） 山子、山子、

ワコ さ、今のうち！乗ってください、あなたの馬になります、ヒーン！

銀次郎 やめてください、若ア！

しゃくなげ うるさーい！！

一瞬、静寂

一久（声） 山子、山子、

あづま 山姉。呼んでる。

山子 たら子ちゃん、ちょっと一久お兄様のこと見てちょうだい。

たら子 はーい。大丈夫？ 一久お兄様？

一久（声） たら子、おかえり。

たら子 ただいまー。

一久（声） 山子は？

たら子 山子お姉ちゃん、呼んでるー。

一久（声） 山子、山子おゝ。

山子 兄様！頑張って！

あづま 山姉！！ ここは大丈夫だから、任せて。

山子 あづま。

あづま 山のお告げなら私も信じるから。

山子 …しゃくなげ！とにかく許しません。とにかく今日は今日だけはだめ！

島田は、帰れェ！

中吉
ごめんなさい！

山子退場

しゃくなげ
…ごめん、ありがと。今のうち行くね。

あづま
その前に一個だけ、ね。中吉ちゃんから、

中吉
あのさ、あづま。

あづま
うじうじするな！頑張れ！

しゃくなげ
…あ…うん、東京行く前にあんたに会えると思ってなかった。…

それで、なに？中吉。

中吉
えっと、

ワコ
その若人、待たれい！

銀次郎
帰りましょうよ、若。

ワコ
嫌だ！この人と一緒に上京物語するの！

銀次郎
若ア。

ワコ
つかさ、お前、ちゃんと借金回収できたのか？そろそろクビだぞ。

銀次郎
ええ！？

ワコ
だがしかし。僕を応援してくれたら、僕がなんとかしてやろう！

銀次郎
本当ですか！？

ワコ
うん、いいよー。

銀次郎
助かります！

あづま
ああ、もう！しゃく姉、中吉ちゃんがね、しゃく姉のこと。

中吉
ああああ！！

ワコ
なるほど、その男も、しゃくなげさんに恋に焦がれた恋敵。これはひとつ、しゃくなげさんにどちらが東京の伴としてふさわしいかを決めていただくということでしょう。

銀次郎
頑張れ、若ア。

しゃくなげ
待って、

ワコ
先手、ボク！古来からあの吾妻山は、京の都で恋の山と言われて、たくさん

の和歌が詠まれていたそうですね。ああ、確かにあの山から絶えずのぼる噴煙のように。あなたの声に、あなたの姿に、燃え続けている僕の心の恋の炎。あなたのためならどこへでも！ イーン！

しゃくなげ

それやめて。

ワコ

次、どうぞ。

中吉

・・・

あづま

ほら、中吉！負けるな！

中吉

ちがうんだよ…

あづま

がんばって！

中吉

僕が、僕がずっと好きだったのは、あづま。君なんだよ！

あづま

え、

しゃくなげ

え？

中吉

うん…。

あづま

えっと、私？え、嘘、だって、いつもお姉ちゃんの話。

中吉

なに話したらいいかわかんなくて。

あづま

え、私？え、本当に、え…。

中吉

うん。ダメ、かな。

ワコ

ひゅーひゅー。

銀次郎

おめでとうございます。

ワコ

それでは、しゃくなげさん、ということで、

しゃくなげ

…最後まであづまは、ズルいね。

あづま

え、なに。

しゃくなげ

学校にも通わせてもらえる。ちっちゃい頃から頭良かったから。あんた学校通わせるために母様はさ、残ってた家のモノまでみーんな売っちゃって。私は、行かせてもらえなかったのに。そんな服も着てみたかった。

あづま

しゃく姉…。でも、私は福島座連れてって貰えなかったし、その、

しゃくなげ

それしかないの。それしかないから私には。だから、その時見た夢にすがってそれだけの…！！

ワコ

しゃくなげさん。あなたはとても魅力的ですよ。

しやくなげ
…武蔵。

ワコ
え？

しやくなげ
武蔵！！

ワコ
イーン！

しやくなげ
一緒に行こつか。あっち行ったらなんとかなるって思ってたけど、やっぱり不安だったし。

ワコ
財布しまーす。銀次郎うまいこと言っておけ。

山子出てきて

山子
それで良いの？しやくなげ。銀次郎さんも、大事な坊っちゃんの駆け落ち手

伝ったなんてバレたら首よ。

銀次郎
えええ！それは困ります！

一久（声）
山子、山子オ、死ぬう。

山子
兄様は死なないわ！！

一久（声）
死ぬう。

山子
死なない！

一久（声）
死ぬ…。

山子
死なないって言え！！

一久（声）
死なない…。

山子
そう！死なない！！兄様にお告げは出ていないもの！たらちゃん、よろしく！

たら子（声）
はーい。

しやくなげ
…山姉も安心でしょ。この人、お金持ちでしょ。この家にとっても良いことじゃない。

山子
許しません。銀次郎さんの会社のぼっちゃんでしょ。山を荒らすような奴ら、あれは駄目、これは駄目、私が決めたことが気に食わないんですよ！

山子
違う！

ワコ
あの、お義姉さん。

山子 お義姉さん!?

ワコ まだ早い?

山子 永遠に來ない。

ワコ 山を荒らすつてのはウチの父の会社の?あれは別に荒らしてるわけじゃ。

山子 …佐原(さばら)の山道に、やけに馬車が通るようになって。なにが始まるのかと思つたら、硫黄を取っているそうですね。

ワコ ああ、硫黄はこの日本に、世界にもつと必要になつてきますからね!

山子 あんなことして。山の怒りを買います。

銀次郎 怒り? ハッ、

あづま 山姉。また、外のひとにそんな話、

山子 この村に伝わつてゐる事実です。ずっと昔、硫黄を取ろうとした家があつて、

そのせいで麓の村に「毒」が広がつて、田畑が駄目になつた。硫黄で儲けた家は村々に恨まれた。

中吉 今はそんなこと、

山子 島田の家のモノは黙つてろ!

中吉 やめてください、その島田とか、なんとか! 少なくとも僕は白樺の家のことなんて恨んでない。

山子 こつちが島田を恨んでんだ。

中吉 父のことは謝ります、謝つたつて仕方ないつてことは解るけど。でも、うちの父ももう死にました。酒呑んでぶつ倒れて、

山子 死んだつて家への恨みは終わらない!

あづま 忘れようよ、山姉。恨んだつて悔やんだつて仕方ない。

山子 忘れちゃいけないことだつてあるの。

あづま 恨みは忘れちゃいけないこと?

山子 恨みの根っこは事実! あんたずいぶんと島田の家のモノの肩持つわね。

あづま この人は中吉! 島田の家のモノなんて名前じゃない。

山子 島田の血を継いでゐるのは本当のことでしょ!

ワコ …あのね、そりゃ硫黄が毒にもなるつてことは解つてますよ。だけどウチの会社も、慎重にやつてますし、ましてや村に被害なんて出てないでしょう。

山子 何を言っても山を荒らしてるでしょうが！

ワコ ちよっとしゃくなげさん、ずいぶん古い考えのお義姉さんですね。そりゃ逃げ出したくもなる。

しゃくなげ …逃げ出す？

ワコ ええ、僕ももううんざりなんですよね、こんな田舎。早く出ましょう。嫌なんでしょう？

しゃくなげ …三十年前、あの吾妻山が噴火しました。

ワコ え？ああ、なんか聞いたことあるか？

銀次郎 ええ、二人、亡くなってますね。どこかの職員だったか。

ワコ それは気の毒に。僕、地元の人間じゃないから知らなかったですよ。ほら、素敵な恋の山ってことはぼっちり記憶してましたけどね！良い山です。

しゃくなげ …噴火のとき硫黄の煙が吹き落ちて、村が駄目になった。そういうことを私たちは覚えてるんです。でも、外の人たちはもちろん知らない。

ワコ そりゃ三十年も前のことですから。

しゃくなげ 私も産まれていない。

ワコ それがなんだって言うんです？

しゃくなげ …昔の人たちは吾妻山にね、牛や馬の足跡がつくことすら忌み嫌ったそうです。道をつくることすら反対した。

銀次郎 あんた、ウチの会社に硫黄採掘をやめろって言いたいのか？

しゃくなげ わからない。

銀次郎 わからない？じゃあ、黙ったほうが良い。

しゃくなげ だけど、これも本当のことだから。事実だから。言葉にしくなってる。

銀次郎 文句があるなら、硫黄鉱山で働いてる奴らの前で言ってみてくださいよ。オ

レも最初はある所で働いてたんだ。命かけて、汗水垂らしてやってんですよ。

それでようやく給金貰って、それで、懐手（ふところ）で瀬上（せのうえ）行って遊ぶんだ。店も俺たちのこと喜んでくれて、町も大いに賑わって。…

おい、それが悪い理由があるってのか？

しゃくなげ 悪いって言いたいんじゃないって…！事実と…現実…。そう、中吉が島田の家の血を引いているのはほんとうのこと。中吉の父親が博打でウチから金む

あづま

ワコ

結局なにが言いたいんです？

しゃくなげ

怪我をした武蔵を：馬を売らなければ生きていけなかったのは、事実かな、現実かな。私が女優という夢しか見られなくなったのは事実か、現実か。：硫黄を取って国が豊かになるのは事実だとして、その先の現実は何？

ワコ

豊かにならない選択をしていった「現実」は僕には見えますよ。我が国は国民一丸となり国を富ませ、強くしてきた。外国じゃ、山や川を「自然」と呼び、闘い、征服してるんだ。広大な「自然」すら征服出来る。ボーっとしてたら、この国も征服されてしまうんです。今までみたいに、山や川に生かされるなんて考えちゃいけない。闘うんだ！しゃくなげさん、あなたが行く東京はそういう場所だよ。何もかもが新しく、あらゆる古いものと闘わなければならぬ。

しゃくなげ

：闘って勝てるの？

ワコ

勝てる。たとえ、どれだけ大きな山だって山肌を削ることが出来るんだ。新しい時代ではそれが出来る。不安に思わなくなつて良い。僕がいるよ。

山子

：あの山には、白くて大きなしゃくなげの花が咲く。どうなっていくの？その花は。

ワコ

時代についてこれないものは、置いていくしかない。それに構う時間はいまはまだ無い。大丈夫、どんな悲しい決断だって、生きている限り忘れていく。大きな噴火だって、十年、二十年、三十年と経てば、忘れられていく

しゃくなげ

それが現実？

ワコ

現実。

しゃくなげ

：そうか。私は現実を変えるために、夢を見るのかもしれない。夢を見せたいのかもしれない。

ワコ

何を言ってるのか解らないな。

しゃくなげ

ごめんなさい。私は、あなたと一緒にいたくない。

ワコ
え？

しゃくなげ
どんなにそれが需要で、この先を見据えたことでも、あなたたちのやっていること、好きじゃないの。好きじゃないことを好きじゃないと言うことくらい、私にも出来る。

ワコ
こんな村にどうして？

しゃくなげ
……生まれ育った場所だから。

ワコ
言わされてるんじゃないの？この村に。

しゃくなげ
そうかもしれない。それでも子どもの頃から見てきた山々は、きっと一生変わらぬこの胸にある。それが良いか話類かじゃなくて、ある。

ワコ
わっかんないひとだなあ。結局古いんだ、あんたも。良いんですね、本当に？女ひとりで東京に行って、やっていけると思ってるんだ。

しゃくなげ
……そうです。一緒に東京に行つていただけるといふ、ありがたいお申し出ですが、お断りします。

ワコ
馬鹿にはつきあつてられないや。……行こう、銀次郎。

銀次郎
良いんですか、若。

ワコ
借金はちやと返して貰えよ。

山子
……申し訳ございません。今は手持ちがありませんので、無いじゃねえんだ。

ワコ
あの、今日の分は僕が払います、ですから。

中吉
中吉、

あづま
これはウチの問題です。

山子
ですから！

中吉
それじゃ卑怯だよ。錢人質に嫁取ろうつてものです。

銀次郎
そんなつもりは。

しゃくなげ
ウチとしては誰から貰ったって構わないんですが。

ワコ
私が女優になったら今借りてるお金に倍の利子つけて返してやります。どうかお引取りを。

しゃくなげ
上手くいくんか。

ワコ
必ず。

ワコ
いかないんだよ。それが事実で現実で真実。さ、払うものは払わなきゃ。銀

次郎！向こうに長男さんがいるんだろう貰ってきな。

銀次郎
あ、この長男は病気でして。

ワコ
一番下の妹が部屋に入ってたろ。流行り病じゃねえってことだ。そういう
布団の下に隠してるもんだ。行つて来い。オレも探させてもらうぞ。

あづま
やめてください、やめて！

ワコ
ああ、それなら。こつちも鬼じゃねえ、そうだな、東京行きの切符くらい貰
つていこうか。

しゃくなげ
山子
…解りました！これで良いなら！
待ちなさい。

山子、隠してあつたなけなしのへそくりの銭を取り出し、ワコに投げつけて

山子
持つていってください。今日の分は足りるでしょう。

銀次郎
こんなに隠してやがったのか！

ワコ
…銀次郎、今度からは床板引つ剥がしてでも探せ。…随分と業が深い家だ。
行くぞ。

銀次郎
はい。

ワコ、銀次郎退場

中吉
あの、

あづま
中吉ちゃん、ごめんなさい。

中吉
あ…そつか…。

あづま
自分で選びたいの。

中吉
これから先、僕が選ばれること、ある？

あづま
それは解んないけど。なくはないと思う。

中吉
じゃあ十分。山子さん。僕は本気ですから。家とか関係なく、

山子
…解ったよ、中吉。…旅立ちまでの少しの時間、家族だけにしてくれないか。

しゃくなげ
姉さん、

中吉
あ……はい、しゃくなげさん、頑張ってください。

しゃくなげ
うん、ありがとう。

中吉
それじゃ、あづま、また。

あづま
うん。

中吉退場

しゃくなげ
山姉、

山子
・・・大事な切符、放り出さないの。

しゃくなげ
…本当は不安で不安でたまらない。どうしよう…きつと、あの人が言ってることも本当。

山子
業、業、業…。職業婦人だ、モダンガールだ、女優だなんて騒いでも、男どもに与えられただけ。同じ口で女は業が深いなんて言うんだ。

しゃくなげ
女の身ひとつで生きていける場所じゃないんだと思う。ひとりじゃ…。

あづま
「元始、女性は実に太陽であった。真正の人であった。今、女性は月である。

しゃくなげ
他に依って生き、他の光によって輝く、病人のような蒼白い顔の月である。」
なに、それ。

あづま
女学校行かせてもらって、これだけ覚えた。しゃく姉と、山姉のために覚えられたんだと思う。平塚雷鳥（ひらつからいちょう）の書いた本のいちばん最初。しゃく姉も、山姉も、自分だけで輝ける太陽だと思うんだ。

しゃくなげ
♪いのち短し 恋せよ乙女

あかき唇 褪（あ）せぬ間に

熱き血潮の 冷えぬ間に

明日（あす）の月日は ないものを♪

山子
その歌、嫌いよ。

しゃくなげ
うん。

山子
明日もあるから。絶対に。

しゃくなげ
うん。

山子 …ねえ、どうしても明日じゃなきゃ駄目？

しゃくなげ 新文芸協会の伊藤松尾（いとうまつお）先生からお手紙を頂戴したの。いま

映画を撮ってて、人が足りないから来てくれないかって。来れるならなるべく早く来てほしいって。そしたら劇団にも入れてくれるかもって。

山子 そんな話がついてたんだ。

しゃくなげ うん…。

山子 …実はね、山のお告げで、明日は南に行くなって。

しゃくなげ そうだろうなって思ってた。姉さんがここまで反対するんだもん。…でも、行く。

山子 そうか。後悔させないでよ、今日この日、大正十二年の八月三十一日に、あなたを東京に見送ること。

しゃくなげ うん、絶対。

山子 たとえこの先、なにがあっても、明日が無いと思えてしまうようなときでも、ここにお姉ちゃんたちがいる。お姉ちゃんたちだけじゃないよ、この故郷がある。ここが帰る場所。留めておいて。

しゃくなげ …私ね、人間には勝てないと思うんだ。あの山。とんでもなく深いよ。立ち込めた霧の中にいるだけで、死ぬかもって思うもん。無くせるわけない。

山子 当たり前でしょ。あの吾妻山もあそこにある。…死なないでね。

しゃくなげ 大げさ。

山子 旅立ちは大げさくらいが良いの。さ、兄様に挨拶して来なさい！

しゃくなげ うん。

しゃくなげ退場

山子 …あづま。月光姥神（げっこううばがみ）様って見たことある？

あづま 姥ヶ原の？

山子 うん。姥神様から先はね、女は入っちゃならないって言われてた。山に入っていく父ちゃんが羨ましかった。ここから先にもきれいな草花があるって。

あづま 父ちゃんと山になんか行ってたんだ。

山子 うん、父ちゃんが露助との戦争行つて怪我して帰ってくる前はよくね。
あづま 私は行ったことないなあ。

山子 …女は穢（けが）れがあるから駄目だつて。死んでも血の池地獄に落ちる。
女に生まれたのは前世の業が深いからなんて。あれを言われたのはやつぱり旅順（りょじゅん）から帰ってきたあとだった。…私ね、姥神様に祈つて
たんだ。来世こそ、男に生まれますように。

あづま 山姉。

山子 バカバカしいね。

あづま うん、バカバカしい。そんなこと信じたら良いように使われちゃうよ。

山子 「元始、女性は実に太陽であつた。」

あづま 本貸してあげる！

山子 読めるかなー。

しゃくなげ、たら子出てきて

しゃくなげ 挨拶して参りました。たらちゃんにも、ね。

山子 しゃくなげ。これ持つてきなさい。

しゃくなげ なに？

山子 銀次郎が持つてきてお土産。美味しいもの入ってるんじゃない。

あづま さすが山姉、ちゃっかりしてる。

山子 ちなみに銭もそこら中に隠してあるから。心配しないで！

たら子 ね、あづまお姉ちゃん、すぐ行っちゃうの？もうお歌聞けないの？

山子 そう。しゃくなげお姉ちゃんは、もつとたくさんのひとにお歌を聞かせるの。

たら子 そっか！みんなニコニコだね。

山子 うん。

たら子 もういつこだけ歌つて？

あづま たらちゃん、列車間に合わなくなっちゃうから。

しゃくなげ 良いよ。じゃあね…たらちゃんでも歌えるのにしよっか。学校で習ったやつね。

たら子 うん！

しゃくなげ ♪ 兎追ひし 彼の山

全員 ♪ 小鮒（こぶな）釣りし 彼の川

夢は今も巡りて 忘れ難き 故郷

しゃくなげ ♪ 忘れ難き 故郷

それじゃあ、行ってきます

全員 行ってらっしゃい！

全員が庭まで出て行き見送る。雲の切れ間から、わずかに明るい陽が差し
ている。ひぐらしの声。今日は大正十二年八月三十一日。明日、東京で起
こる出来事を誰もまだ知らない。（幕）

引用

こがね虫（作詞…野口雨情 作曲…中山晋平）

ゴンドラの唄（作詞…吉井勇 作曲…中山晋平）

故郷（作詞…高野辰之 作曲…岡野貞一）

平塚らいてう『青鞥』発刊の辞（小林登美枝・米田佐代子編『平塚らいてう評論集』 岩

波文庫一九八七年より引用）